



9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



目標9

産業と技術革新の基盤をつくろう

目標内容は、強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な都市及び人間居住を実現する。

※インフラとは水や電気・インターネットのほか、病院や公園、道路のような「日々の生活を支える基盤・設備」全般を指す言葉です。

目標内容の説明

スマートフォンや自動運転の車など、産業や技術革新が発展していくことで、私たちの暮らしは便利で豊かなものになっています。この産業や技術革新が今後も続いていくためには、電気、水道、交通、インターネットなど、しっかりとしたインフラがあることが前提条件となります。私たちの生活に必要な不可欠な水道や電気が整わなければ、暮らしの質だけでなく健康や仕事の環境にも影響を与えてしまいます。人々の暮らしを豊かにし、持続可能な社会を築くうえで、インフラ整備は欠かせません。

世界の現状

- 安定的な電力供給を受けられない人 …… 約26億人
- 水資源にアクセスできない人 …… 約8億人
- 電話サービスを受けられない人 …… 約15億人
- インターネットにアクセスできない人 …… 世界の人口の約半分



途上国では、インフラの未整備により、企業の生産性が約40%損なわれているという報告もされています。

(参考:国際連合広報センター 持続可能な開発のための2030アジェンダ採択--持続可能な開発目標ファクトシート)

日本の現状

日本は、比較的インフラが整っており、発展途上国のような課題が見えにくいですが、実は目標内容の強靱なインフラ構築というところに課題があるんです。この強靱なインフラとは、自然災害にも耐える事のできる(大災害が起きてもすぐに復旧できる)という意味も込められています。

日本は世界的に見ても、自然災害が多発する国であることから、災害が起きてもち早く元の状態に回復できる強靱な基盤が求められています。

■ 恩納村での産業と技術革新

恩納村では、沖縄科学技術大学院大学(OIST)と連携した、様々なイノベーションの策定を行っています。

OISTと恩納村漁業協同組合との連携

養殖研究 沖縄土産でも人気の海ぶどうやモズク(拠点産地認定)をOISTと連携し養殖技術を進化させる取り組みを行っています!

研究では先進の解析機を駆使して海ぶどうを遺伝子レベルで健康管理し、品質や生産向上に役立てています。



遺伝子研究 OISTは世界で初めてサンゴの遺伝子を解読しており、恩納村漁業協同組合を中心に行っているサンゴ養殖・移植に活かして、環境変動に対応できる多様性に満ちたサンゴ礁の再生を目指しています。



OISTと恩納村との連携

その他にも生活習慣病の予防・改善に役立つと評価されているOIST米が品種登録されました。現在、このOIST米を使った商品開発を行っており、産業化が期待されています。

(参考:OIST10周年記念パンフレット)



お問い合わせ:恩納村SDGs推進事務局(企画課内) ☎966-1201 ✉sunna.sdgs@gmail.com



恩納村のSDGs
取組情報